シリーズ 市政の今 特別編

次期総合計画策定に向けて③

これまでの歩みを振り返る ～「心豊かに」の視点から～

次期総合計画策定までを、年間を通してお伝えする「シリーズ 市政の『今』特別編」。今回は現在の総合計画の中から「心豊かに暮らせるまちづくり」の分野にスポットを当てて、その進捗状況などを振り返ります。

◆心豊かに暮らせるまちづくり

次期総合計画策定の柱の一つである心豊かに暮らせるまちづくりでは、都会にはない本市の豊かな自然、歴史文化、特色ある教育など地域資源を最大限に生かし、地域で産み育て、学び、働き、暮らすサイクルを回すことにより「心豊かに暮らせるまちづくり」を進めています。

◆現在の総合計画の進捗

ここでは、現在の総合計画（来年3月終了）を進める中で、どんな事業が実施されてきたか、また、舞鶴にどのような変化があったのか「心豊かに暮らせるまちづくり」の視点から振り返ってみます。

【子育て】

新しい時代を担っていく子ども達のため、発達段階や個性を尊重した子育て・教育環境づくりに努めました。まず、保育ニーズの高まりに対応し、仕事と家庭の両立を支援するため、通常保育、一時預かり、病児保育などの保育サービス充実に努めるとともに保育所の待機児童数ゼロを堅持しています。

また、全天候型で安心して遊べる子育て交流施設「あそびあむ」を設置しました。五感を使った豊かな遊びを通した「学び・育ち・交流」につながるさまざまな企画によって、子ども達の自発的な遊びを促す施設として多くの市民に利用されています。

さらに中総合会館に「子どもなんでも相談窓口」を設置しました。子どもに関するあらゆる相談ごとをワンストップで受け付ける同窓口は、親だけでなく子ども本人からの相談も受け、困りごとの解決を図ってきました。

【教育】

0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育環境づくりのためにさまざまな施策を実施しました。とりわけ、乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要な時期であることから、発達段階に応じて豊かな遊びや生活・体験の中で育ってほしい子どもの姿などを明記した「乳幼児教育ビジョン」を策定。保育所、幼稚園、学校の保育者と教員が共に学び合うことで乳幼児教育の充実に取り組んできました。

また、今年の春から市内全ての小・中学校で小中一貫教育を導入し、子どもの発達段階に応じた一貫性のある教育を実施します。

さらに、市内初となる認定こども園の平成31年開園に向け、園舎工事を進めており、同園には、市内全体の乳幼児教育の質の向上に向けた取り組みを推進する拠点施設として、乳幼児教育センターを併設します。

【歴史・文化を活かして】

「全ての市民が文化を楽しみ、創造できるまち 舞鶴」、「まちを誇りに思い、愛着が感じられる文化都市 舞鶴」の実現を目指し「舞鶴市文化振興条例」を制定し、取り組みを進めています。

赤れんが倉庫群などの近代化遺産を活用したまちづくりは、赤れんがパークのにぎわいなど、市民の皆さんにも実感していただいているところですが、そのほかにも本市に数多くある歴史文化遺産のさらなる活用を進めていきます。その一つとして「海辺の京都 浮世絵コレクション（糸井文庫）」の活用と魅力の発信を進めていく予定です。

【舞鶴版コンパクトシティ＋ネットワーク】

暮らしやすい将来の都市像の方向性を示す第3次舞鶴市都市計画マスタープランを策定しました。市全体の核となるまちなか形成と合わせ、地域間の分担と連携を大切にする「舞鶴版コンパクトシティ＋ネットワーク」をこれからの都市構造として明確に位置付け、次世代に継承できるまちを目指します。

また、立地適正化計画では、元気なまちなかが持続できるよう、居住および都市機能誘導区域を設定し、駅を中心としたにぎわい拠点の形成に取り組みます。

【健康に暮らせるために】

「舞鶴版スマートウェルネスシティ」の実現を目指して、健康寿命を延ばすための取り組みを行っているところです。その一つとして、「ウオーキング」を中心とした多彩な角度からのイベントを実施しています。多くの市民に楽しんでもらいながら、健康づくりに役立ててもらっています。

【移住・定住促進】

平成29年度の移住者は12組26人と過去最高となりました。この流れをさらに加速させるため、4月から市役所内に移住・定住促進課を設置し、施策の幅を広げて、これまで以上に移住・定住促進を強化していきます。

総合計画審議会委員に聞きました!!

舞鶴市総合計画審議会 委員
京都北都信用金庫勤務
坂根 美帆 さん

私は舞鶴生れの舞鶴育ち、舞鶴で就職し、今に至っています。審議会では、各方面で活躍されている方の意見も聞かせてもらう中で、これまでの自身の経験を踏まえて自分の思いを述べています。

自然が近い所でゆったりと住めることは、都会にはない良さとして大変価値のあることです。地域のつながりやお祭りなど伝統も残しつつ、移り住んで来られる人をしっかりと受け入れて、まちが活性化してほしいと思っています。「地元」を舞鶴に限定するのではなく、綾部・福知山など広い範囲で考えれば、就職先の職種の幅も広がります。舞鶴の良さを、子ども達にも伝えることによって、多くの子ども達に、積極的に舞鶴に住み続けることを選択をして欲しいですね。

私は田辺城まつりなどのイベントで「よさこい」を踊っていて、初めは好きで始めたことですが、今では、まちを元気にしたいという気持ちを強くして参加しています。多くの市民の皆さんが趣味を生かして、まちを盛り上げることに協力し合えれば、より良い方向に向かうかなと考えています。

出品者も鑑賞者にも親しまれている舞鶴市展

引き継がれる伝統行事（吉原の太刀振）

子育て交流施設 あそびあむ

ウオーキングイベントで健康増進

赤れんがパークには多くの人が訪れる

中学校での小学6年生合同授業